

### テーマ3 焦らずしつけを

#### 【ねらい】

しつけの仕方等について事例を通して話し合い、しつけの大切さや子どもにあったしつけの仕方のポイントを学ぶ。また、しつけをするときには子どもとじっくり向き合い、子どもの個性や特質を理解することが必要であることを知る。

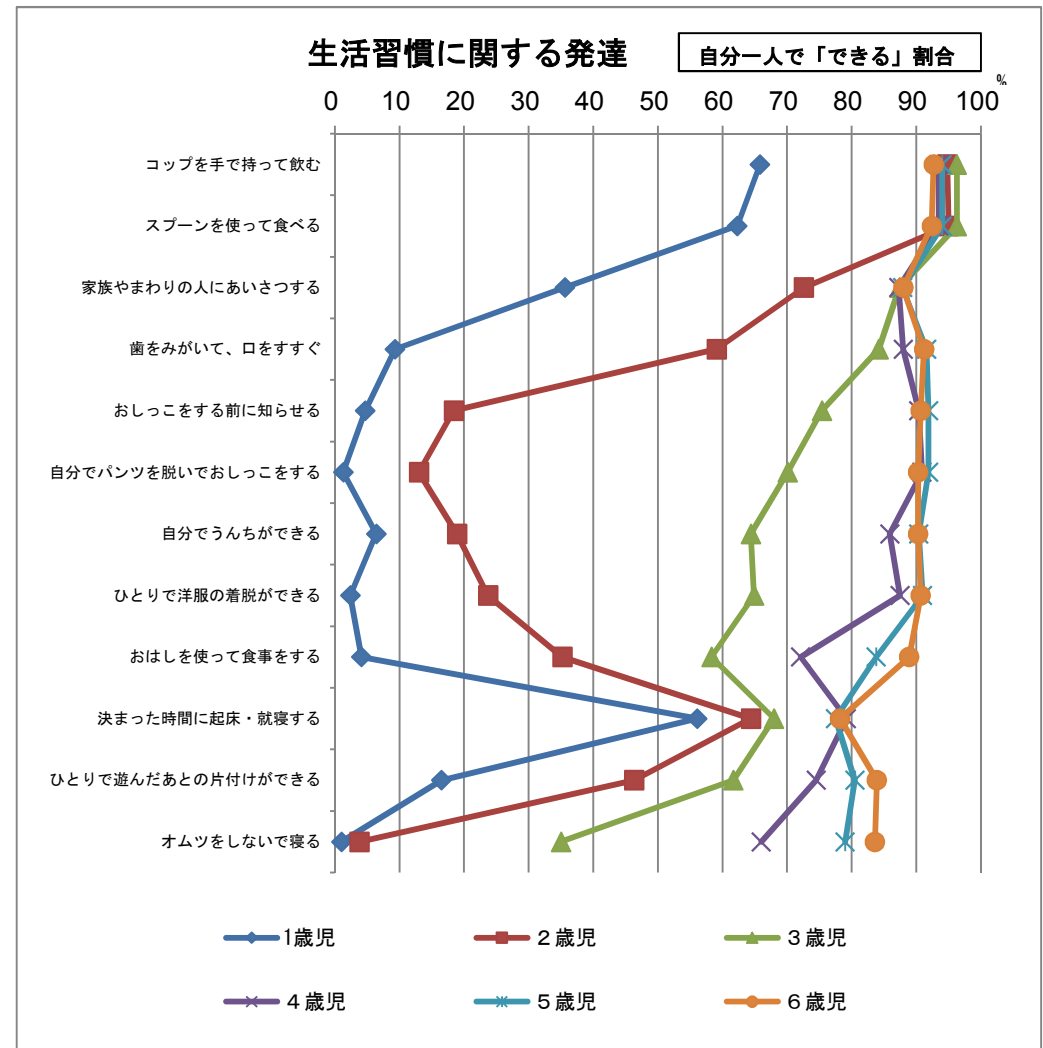
#### 【活動の流れ】

- 1 事例を読み、親の3つの対応の中から、参加者がどれに近いかを選び、その理由をワークシートに書く。
- 2 参加者が選んだ理由を発表し、話し合う。
- 3 しつけ全般において、気をつけていることをワークシートに書き、話し合う。
- 4 話し合いから参考となるしつけのポイントを書き、参加者同士で交流する。
- 5 ファシリテーターがまとめ、参加者自身に合ったしつけのポイントを実践できるように、意欲づけをする。

#### 【支援のポイント】

- 事例の会話を読むだけでなく、ファシリテーターが子ども役か親役となり、できる限り場の雰囲気を出すように努める。
- しつけは大切であるが、しつけなければという思いが強すぎると、親自身の行動に歯止めがきかなくなり、児童虐待につながるおそれがあることを押さえる。
- 子どもは家庭での約束やルールを守ったり破ったりしながら、成長していくものであることを知らせる。
- 事例の食事のしつけのみに話が終始しないよう、しつけ全般に話し合いが広まるように配慮する。
- しつけをするときには、子どもの特質をよく理解し、子どもにあった方法でしつけをすることの大切さを知らせる。
- 問題に見える子どもの行動も、親や大人が丁寧に対応することにより、個性として育つようになることを押さえる。

#### 【参考資料】



対象：満1歳以上～6歳就学前の幼児をもつ保護者

【第5回幼児の生活アンケート(ベネッセ教育総合研究所 2015)】